

本日から表題の聖書の連続講解説教をします。故田中剛二先生は1963年、神港教会でこの手紙を43回かけて連続説教をされました。5章あるこの手紙は全部で89節ありますから、一説教あたり2節平均を積義説教されたわけです。1章だけでも11回の説教をされています。私にはそんな実力はありませんから、その何分の一くらいでしょう。

テサロニケとはギリシャの都市の名前で、この地にできた教会の誕生の様子と手紙の執筆事情、背景は、使徒言行録17章に描かれています。パウロの第一次伝道旅行(13、14章)は、ローマ帝国のアジア州(現在のトルコ)内だけを巡る旅行でしたが、第2次伝道旅行(15:36~18:22)のとき、福音はアジアを越えてヨーロッパに入りました。これはパウロたちにとっても予想外のことで、使徒言行録は「ビティニア州へ入ることを、イエスの霊が許さず」、代わりにマケドニア(ギリシャ)人が「マケドニア州に渡って来て、私たちを助けてください」と願う幻を見たと言います(16:6~10)。

パウロたちはアジア州の西の端トロアスから船出し、サモトラケ島を經由し、ヨーロッパの東端にあるネアポリス港に到着。フィリピで伝道し、アンフィポリスとアポロニアを経てテサロニケに着きます。

このルートはローマ帝国の「エグナティア街道」と呼ばれ、紀元前2世紀に、アドリア海からボスフォラス海峡までのローマ属州を結ぶ目的で建設されました。現在のアルバニア、ギリシャ、トルコを結ぶ道路で、幅6mあったと言われます。ギリシャからアドリア海を渡るとそこはもうイタリアで、「アッピア街道」を北上してローマに達します。

パウロたちはテサロニケでユダヤ人たちの迫害に遭い、ベレアに逃れ、そこでも迫害され、テモテとシラスを残し、アテネ経由、コリントへ来て、1年半滞在している間にこの手紙を書いたのでしょう。パウロは自身でテサロニケに行きたかったのですが、「サタンによって妨げられ」ました(2:18)。それはテサロニケでパウロたちを逮捕した当局者たちが、「ヤソンやほかの者たちから保証金を取ったうえで彼らを釈放した」(使徒言行録17:9)ので、パウロが戻ればこの保証金は没収されてしまうのです。これをパウロはサタンの妨害と呼びました。

パウロたちのテサロニケ滞在日数は分かりませんが、使徒言行録では「3回の安息日にわたって聖書を引用して論じ合った」(17:2)と記録しています。そのほかに、テモテとシラスたちがベレアから牧会したのでしょう。5:12を見ますと、ある程度の組織も出ています。